

ARTISTS

KLO PELGAG (Canada)

クロ・ペルガグ (カナダ)



カナダ東部に位置し、フランス語が公用語であるケベック州出身、1990年生まれの27歳。2012年に4曲入りEPでデビュー。翌年には初のフル・アルバム『L'Alchimie Des Monstres (怪物たちの錬金術)』を発表し、本国カナダ、そしてフランスで高い評価を獲得し、各賞を受賞。デビュー・アルバムにしてまさに《怪物》級の才能は驚きと共に世界に知られる事となった。影響を受けた人物としてダリ、マグリット、ドビュッシー、ジャック・ブレール、キング・クリムゾン、フランク・ザッパなどを並列に挙げている。ビョークら個性的な女性ヴォーカルのDNAを受け継ぐ歌声、奇天烈でありながらも美しく収束する編曲構成、かぶり物や不気味なステージ装置をバックにその小さな身体が放つ佇まいは、まるで彼女自身が音楽そのものでできているかのような印象を与える。

●来日編成: クロ・ペルガグ(ピアノ、ギター、ヴォーカル) / ファニ・フレサル(バイオリン)・ラナ・トムラン(ビオラ) / マリアン・ウレ(チェロ) / フランソワ・ゼダン(キーボード、ベース、ギター) / ドラム: マルク・アンドレ・ベテル

スギヤキ2017
8.27 SUN

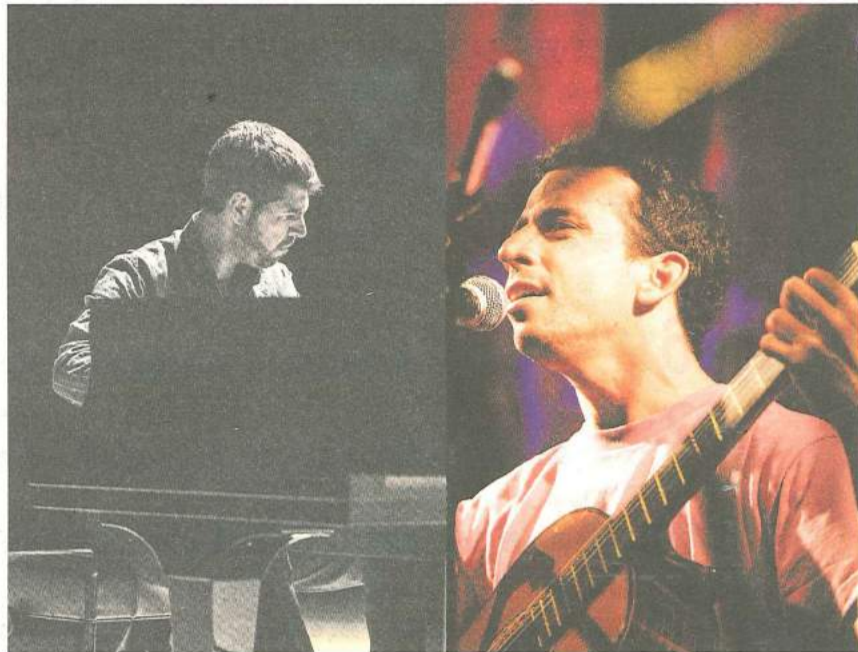
ヘリオスステージ

スギヤキ・トーキョー
8.30 WED

DAY2

ANDRE MEHMARI-JUAN QUINTERO (Brazil, Argentina)

アンドレ・メマリ/フアン・キンテーロ (ブラジル/アルゼンチン)



現代ブラジルが生んだ最高峰ピアニスト/作曲家、アンドレ・メマリ。現代アルゼンチン音楽の代表的グループ<ACA SECA TRIO>のフロントマンにして、同国屈指のシンガーソングライター/ギタリスト、フアン・キンテーロ。南米を代表する二人の音楽家が互いの楽曲を持ち寄り、マルチ奏者としての才能も発揮しながら、「歌」と「インストルメンタル」を自在に行き来しつつ繰り広げる21世紀の南米音楽。カルロス・アギーレを含むトリオ編成でのアルバムも近日リリース予定。彼らを軸とした新しい音楽の系譜が、いま始動する。

●来日編成: アンドレ・メマリ(ピアノ、キーボード、アコーディオン、ヴォーカル) / フアン・キンテーロ(ギター、ヴォーカル、パーカッション)

スギヤキ2017
8.27 SUN

ヘリオスステージ

スギヤキ・トーキョー
8.30 WED

DAY2

TAKASHI HIRAYASU with coco←musika (Japan/Okinawa)

平安 隆 with coco←musika (日本/沖縄)



平安隆は、自らのルーツ・ミュージックである沖縄民謡はもとより、R&B、ブルース、ロック、レゲエなど長いキャリアの中で多様な音楽を吸収してきた。優しさ溢れる包み込むような声、そして三線とギターから紡ぎ出されるふくよかな音が、聴き手を無限の海原へと誘う。

1952年沖縄島中城村生まれ。10代半ばに嘉手納基地内のバンドのギタリストとしてキャリアをスタート。20代前半には沖縄のマルフレコードのスタジオで無数の楽曲録音に参加。その後喜納昌吉&チャンブルズのメンバーとして、また故ボブ・プロズマンとのデュオなどで世界を股にかけて活躍。宮沢和史、ポ・ガンボス、サンディといったアーティストたちの録音にも参加している沖縄を代表するアーティストの一人。

●編成: 平安 隆(三線、ギター、ヴォーカル) / グレン大嶋(三線、ギター、ヴォーカル) / 梶原 順(ギター)

スギヤキ2017
8.25 FRI

ナイトステージ

CHRIS COMBETTE (French Guyana)

クリス・コンベッテ (仏領ギアナ)



アフリカ、ヨーロッパ、アジアなど様々な文化が混じり合ったカリブ海のエッセンス(=クレオール)を取り入れたクリス・コンベッテの音楽は、彼の人生そのもの。優しさ溢れるヴォーカルとしなやかなリズムを聞けば、カリブ海の音楽のイメージが変わるはず。

1955年南米大陸の仏領ギアナ生まれで、幼い頃に家族と共にマルティニークへ移住。1970年代初めから音楽を始め、90年代からはソロとしてアルバムを発表する一方で、マラヴォワなどフランス語圏カリブ海のアーティスト達への楽曲提供やコラボなどで、私著作権協会から数々の賞も受賞。2016年に初来日。高知から世界に向けて「よさこい鳴子踊り」を発信する注目のプロジェクト「yosakoi mondial」にも参加している。

●編成: クリス・コンベッテ(ギター、ヴォーカル)

スギヤキ2017
8.25 FRI

ナイトステージ

SUKIYAKI STEEL ORCHESTRA (Japan/Sukiyaki)

スギヤキ・スティール・オーケストラ (日本/スギヤキ)



カリブ海に浮かぶ島国トリニダード・トバゴで誕生し、20世紀最後のアコースティック楽器と言われるスティールパン。ドラム缶で出来ているとは思えないほど甘く澄んだその音色に魅せられた人達によって結成されている。メンバーは、中学生から50代と家族のように幅広く、介護士、保育士、大工など様々な職種が集まる。楽曲によって振付を取り入れるなど、常に「魅せて聴かせること」を意識したステージには定評がある。専用の練習場(パンヤード)を持ち、日々楽曲を磨きスキルアップに努める。

2015年に結成20年を迎え、高い演奏技術と表現力によって日本のシーンの中心として存在するだけでなく、地域にスティールパンを根付かせた功績により全国から高い評価を受ける唯一無二のスティールパン・オーケストラ。

スギヤキ2017
8.26 SAT

フローラルステージ

SALAAM ALEIKUM! (Japan/Sukiyaki)

サラマレクム! (日本/スギヤキ)



1998年夏、セネガルの打楽器奏者アローナ・ニジャエローズ氏による西アフリカの太鼓「ジャンベ」のワークショップを受講した仲間が結成される。その後、韓国伝統打楽器「チャンゴ」に出会い、チャン・ジェヒョ氏の指導を仰ぐ。学んできた技をミックスし、唯一無二の

無国籍《ボーダレス》打楽器集団を目指す。太鼓に歌や踊りを交え、あふれる根源的な力と、躍動感のあるステージ作りに取り組む。

スギヤキ2017
8.26 SAT

スギヤキ・パレード(8.26)ほか

SUKIYAKI GIANT PUPPETS GROUP (Japan/Sukiyaki)

スギヤキ巨人形隊 (日本/スギヤキ)



2014年モザンビークの講師とともに廃材や身近な材料を使ってひとりで作る高さ3mを超える巨人形を製作。翌年メキシコのアーティストのデザインによる2体、そして昨年は独自に小人形とサウンドシステムオブジェを製作。その一種異様な迫力は、老若男女

に大活躍。一躍フェスの顔となり、各地のイベントで活躍中。今年は地産の材料と伝統的な作業による人形を製作。さらに、パフォーマンスを計画。市内井波地域アスモSCにある工房での公開製作も必見!

スギヤキ2017
8.26 SAT

スギヤキ・パレード(8.26)ほか